



初めての定期考査(前期中間考査)を終えて

～結果よりも、これからのプロセス～

中学校に入学して約3ヶ月。小学校のテストとは異なり、広い範囲から出題される本格的な定期考査に、生徒たちは独特の緊張感をもって臨んでいました。答案が返却され、教室では一喜一憂する姿が見られましたが、今回のテストを通じて、「日頃の学習への取り組み方」による個人差が少しずつ見えてきたのも事実です。ここで大切なのは、「点数や結果だけで終わらせない」ということです。初めての定期考査は、いわば中学校生活の「練習試合」。良かった点も反省点も、すべてはこれからの成長につなげるための貴重なデータです。

次のステップに向けて、学年全体で以下の「2つの約束」を実践していきたいと考えています。

①「学習計画表」を活用し、提出物に計画的に取り組む

テスト直前になって「ワークが終わらない!」「提出物が多すぎる!」と、焦っている声が多数聞こえてきました。提出物は、単に「出して終わり」のものではありません。日頃から「授業で習ったその日のうちに、計画的に進めていくこと」が、そのまま確実なテスト対策になります。今後は、学校で配付している「学習計画表」をしっかりと活用し「いつ、何をやるか」を自分で見通し、スケジュールを管理する力を少しずつ身に付けていきましょう。ご家庭でも、計画表通りに進んでいるか時折声をかけていただけると幸いです。

② 毎日の「50分間の授業」を何より大事にする

テスト勉強のすべては、日々の授業から始まっています。「授業中にしっかり話を聞く」「その場で理解しようとする」「分からないことはすぐ先生や友達に聞く」という毎日の50分間の授業の受け方こそが、最大のテスト対策です。日常の授業を、もっともっと大切にしていきましょう。授業はクラス全員で作っていくものです。

✿ 保護者の皆様へのお願い

前期中間考査の個票を配付いたしました。テストの結果が出ると、どうしても点数や順位に目が向きがちですが、ぜひ「どこが理解できていて、どこが苦手なのか」という中身に注目していただきたいと思います。結果がどうであれ、まずは「初めての定期考査に向けて努力したプロセス」を労っていただけると幸いです。そして、生徒自身が自分の取り組み方を振り返り、次に向けてより良い準備ができるよう、お声掛けをお願いいたします。また、個票に保護者の方から一言いただく欄がございますので、ご記入のうえ、期日までに提出してください。

学年団一同、今回の振り返りを活かし、生徒一人一人が次への一步を自信をもって踏み出せるよう、日々の授業や家庭学習のサポートに全力を尽くしてまいります。

* 7月の予定 *

あっという間に7月がやってきました。雨が多く例年になく涼しい6月でしたが、「夏」がすぐそこまで来ています。夏休みには「三者面談」もあります。これまでに振り返り「夏」を迎える準備をしていきましょう。

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
	生徒会朝礼 避難訓練		教員研修 (4時間授業)			
12	13	14	15	16	17	18
					全校集会 大掃除 (5時間授業)	
19	20	21	22	23	24	25
		夏季休業期間開始	三者面談(始)			
26	27	28	29	30	31	
			三者面談(終)			

* 今日この頃…思うこと *

6月は雨が多く、気温も低い日が続きました。ここ最近の蒸し暑さが、なおさら身体にこたえる感じがする今日この頃です。暑さに体を慣らしていなくては…とあったりします。

6月最終日の朝2時、早起きなのか夜更かしなのかわかりませんが、W杯の日本代表の試合がありました。過去5回の優勝を誇る強豪国のブラジルとの「負けられない戦い」でした。日本代表は深夜の日本中を熱く燃え上がらせました。テレビの前で応援した人もいたのではないのでしょうか？何を隠そう私もその一人でした。日本が先制点を決めた時には、夜中に驚きと喜びを抑えるのが大変だったくらいでした。しかし、残念ながら、アディショナルタイムに逆転されるという大変悔しい結果に終わりました。

責任を背負って泣き崩れる田中碧選手の姿が痛々しかったですが、代表チームの選手たちは誰一人、負けた理由を人のせいにはしませんでした。むしろインタビューに答える一人一人が「力不足でした。」「まだまだ足りないところがある。」と、自らを振り返っていました。4年間本当に極限まで自分を追い込み、トレーニングを積んで準備をしてきた選手たちの、この一戦にかける想いは到底私たちには計り知れません。「悔しい」という言葉だけでは表せない、私たちの想像をはるかに超えた多くの感情や想いがあるのだろうと、勝手に思う今日この頃です。



それでも、「誰も人のせいにはしない。」その姿勢に、私は大変感動しました。皆さんは感じることはありませんか？